

＝歴史と哲学の県立熊谷図書館＝資料案内・展示資料目録

ライブラリー

Lib. Letter

2013 Spring [5～8月]季刊

平成25年5月26日 通巻 第32号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

埼玉県のマスコット コハトン



彩の国
埼玉県

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

創刊雑誌 百花繚乱

～明治から昭和 40 年代の雑誌創刊号～

慶応3（1867）年に始まったとされる日本の雑誌文化は、その後国民の中に定着し、各時代の人々のさまざまな想いととも、たくさんの雑誌が読まれ続けています。

今回は、そんな時代が生んだ創刊雑誌を、県立熊谷図書館所蔵の、歴史、哲学、総合雑誌、週刊誌からピックアップしてご紹介します。

創刊雑誌とともにひととき、時間旅行を楽しんでみてはいかがでしょうか？

1 日本で最初の雑誌

日本で最初の雑誌は、慶応3（1867）年の『西洋雑誌』であると言われています。

洋学者である柳川春三が、欧米諸国の学術に関する記事を翻訳して創刊したのが始まりでした。表紙には「毎月刊行」と大きな字で書かれていましたが、残念ながら柳川春三の死により、明治2（1869）年までに6冊を刊行して廃刊となっています。

ところで現在当たり前のように使われている「雑誌」という言葉ですが、この言葉も柳川春三が、『西洋雑誌』の巻末にて「この雑誌出版の意ハ西洋諸国月々出版するマガセインの如く…」と、マガセイン（マガジン）を「雑誌」と訳したのが始まりと言われています。

2 明治

『西洋雑誌』創刊の翌年、明治政府が発足しました。毎日新聞の前身である「東京日日新聞」（明治5（1872）年）や「読売新聞」（明治7（1874）年）、「朝日新聞」（明治12（1879）年）が創刊される時代、新聞は毎日刊行されるものではなく、雑誌と新聞の区別は今ほどついていませんでした。

そんな中、^{ありのり}森有礼、^{あまね}西村茂樹、^{まみち}福沢諭吉、^{みのつくり}西周、津田真道、中村正直、箕作秋平ら、16名のそうそうたるメンバーで作られたグループ「明六社」が、明治7（1874）年に創刊したのが、『明六雑誌』でした。明六社のメンバーは欧米への留学経験のある学術団体で、当時の知識人達に愛読されました。政治的、啓蒙的要素が強かったこともあり、明治政府の検閲に引っかかり廃刊となりましたが、この『明六雑誌』こそ、日本初の「総合雑誌」に当たるものでした。総合雑誌とは、1冊の中に政治、経済、社会、文化、小説などを盛り込んだ内容の雑誌ですが、この『明六雑誌』を始めとして、明治期に創刊された雑誌としては、明治32（1899）年創刊、現在も刊行が続いている『中央公論』などがあります。

明治期の雑誌創刊には、出版社である「博文館」の存在も大きなものでした。明治20（1887）年創

業の博文館は、多くの雑誌創刊のみならず、専属印刷所を創業させ、書店との取次業も行い、その後の出版業界に大きな影響を与えました。

Pick up !

まるまるちんぶん
『団々珍聞』 明治10(1877)年3月 団団社
(本邦社 復刻版)

正式誌名は「於東京江団々珍聞(おどけえまるまるちんぶん)」といい、内務省官吏であった野村文夫が創刊しました。明治8(1875)年、新聞の言論弾圧が進み、各新聞雑誌が伏せ字として〇〇(まるまる)を使ったことに由来しています。イラストを多用し、社会、政治を面白おかしく風刺しました。後に『滑稽新聞』等を刊行する宮武外骨は、この雑誌の読者投稿者の一人でもありました。

※表紙図版使用について、著作権者不明のまま掲載させていただきます。



『龍門雑誌』 明治21(1888)年4月 龍門社

「龍門社」は渋沢栄一を慕っていた渋沢邸の書生たちの勉強会が起源となり、明治19(1886)年ごろ設立されたと言われています。名付け親は渋沢栄一の論語の師であり、富岡製糸場の初代場長でもある尾高淳忠(おだか あつただ)でした。『龍門雑誌』は龍門社の会誌として創刊され、第1号には社説として尾高淳忠が「商戦論」を記しています。

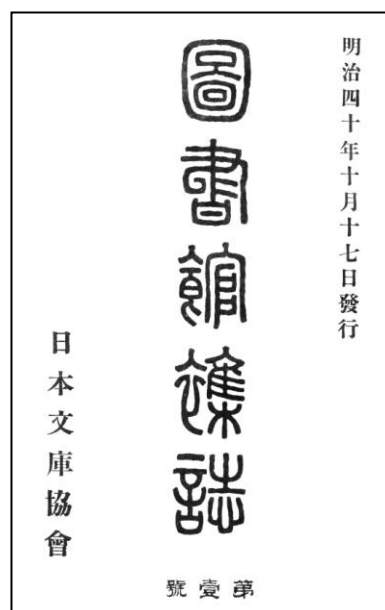
『龍門雑誌』は現在『青淵』と改題され、刊行が続いています。



『図書館雑誌』 明治40(1907)年10月 日本文庫協会

日本の図書館を代表する総合組織「日本図書館協会」の前身である「日本文庫協会」は、明治25(1892)年に世界で3番目に創立された図書館団体です。明治後期になると国内各地で図書館が整備され始めましたが、世界に比べ普及はまだ遠い時代でした。創刊号の「発刊の辞」では、「今や我儕は更に研鑽の歩武を前むる一手段として『図書館雑誌』を発刊し、洽く同学同業の間に各自の知見を交換し、相互の気脈を通ずるに資せむと欲す。」と、図書館普及と図書館人の研鑽に対する意識の強さがうかがえます。

『図書館雑誌』は現在も継続して刊行されています。



3 大正

大正3(1914)年に起こった第一次世界大戦により、日本は経済的にも急成長し、資本主義社会へと進んでいきました。売れる雑誌を、という編集の意識が働いた雑誌も多く創刊されました。

大正11(1922)年、『週刊朝日』の前身『旬刊朝日』と、『サンデー毎日』が産声を上げました。創刊時は『週刊朝日』が社会情勢などを扱い、『サンデー毎日』は生活記事が中心の記事で性格に違いがありましたが、2誌は時代とともに変化しながら現在まで刊行が続いています。

大正8(1919)年には、「改造社」を立ち上げた山本実彦によって総合雑誌の『改造』が創刊されます。大正デモクラシーの影響を受け、社会主義運動や労働運動が頻発していた頃であり、それらに関するテーマを扱った雑誌は売れ、当時の思想界に大きな影響を与えました。創刊号の執筆者には、与謝野晶子、幸田露伴、坪内逍遙等の名が連なっています。

『中央公論』、『改造』に多く執筆していた菊池寛が、「私は頼まれて物を云うことに飽いた。(中略)一には、自分のため、一には他のため、この小雑誌を出すことにした」という創刊の辞とともに『文藝春秋』を創刊したのは、大正12(1923)年のことでした。当初は文芸雑誌としてスタートしましたが、大正15(1926)年11月には、政治記事も扱う総合雑誌へと変化します。

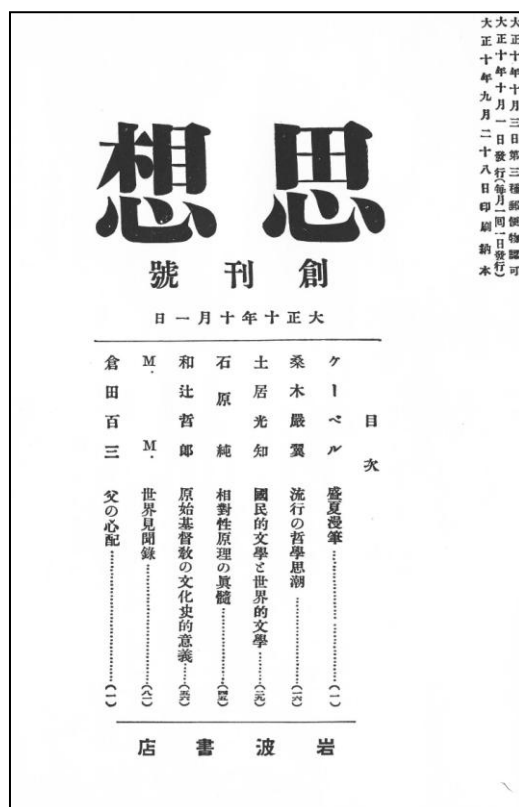
日本で初めてミリオンセラーを出した雑誌、それは講談社の創業者である野間清治が、大正14(1925)年、満を持して創刊した娯楽雑誌『キング』でした。多くの広告と巧みな宣伝効果も手伝い、「一家に一冊」と呼ばれた雑誌の創刊号には、家族で楽しめる多色刷りの双六が付録として付けられました。代表的な週刊誌や総合雑誌の多くの発行部数が80万部に届かない現在の状況からも、ミリオン＝百万部を突破する発行部数が、当時の出版業界に大きな影響を与えたことは言うまでもありません。

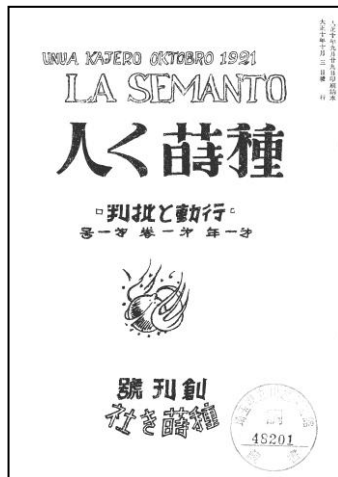
Pick up !

『思想』 大正10年10月 岩波書店 (岩波書店 復刻版)

歴史、哲学、社会科学を扱った学術雑誌として創刊し、現在も刊行が続いています。

創刊号には、「『思想』は或一つの主張を宣傳しようとするものではありません。苟くも真と善と美とに奉仕する労作は、いかなる立場いかなる領域であつても、これを集録してわが国人の一般教養に資したいと考へて居ります。」という辞が掲げられています。





『種蒔く人』 大正10年10月 種蒔き社
(ほるぷ出版 復刻版)

創刊者の小牧^{こまき}近江^{おうみ}は、渡仏中に反戦思想家アンリ・バルビュスの運動に共鳴し、その運動を実践するべく帰国した後、大正10年2月に「種蒔く人」を故郷秋田市土崎港で創刊しました。その後東京で改めて創刊したこの雑誌は、日本プロレタリア文学運動を開始させた雑誌とも言われています。

4 昭和（戦前・戦中）

大正11(1922)年には、日本共産党が組織されており、その影響を受けたプロレタリア文学も、前後して生まれていました。プロレタリア芸術運動に役割を果たした『戦旗』は昭和3(1928)年に創刊され、ここからは「蟹工船」などで知られる小林多喜二もデビューしました。しかし、特高警察による検閲により、のちに発禁処分となっていました。

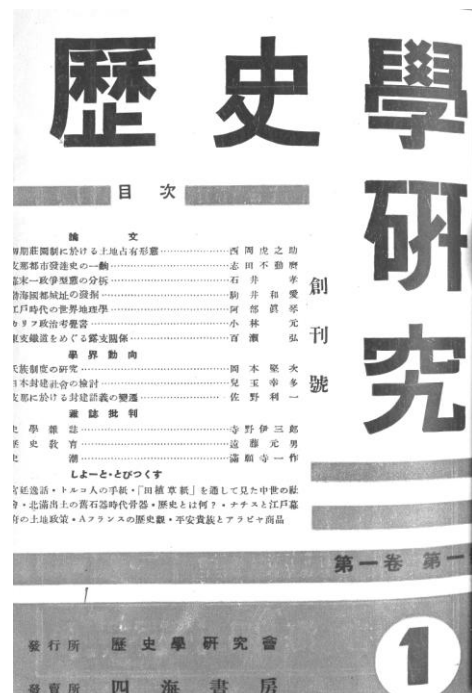
昭和12(1937)年、日中戦争が勃発し、情勢が一変します。まず、世相を色濃く映す雑誌にも早くに影響が現れ、「時局雑誌」と呼ばれる、非常時体制下の状況報告や解説を内容とした臨時増刊号が刊行されました。と同時に、戦争に対してわずかでも批判的な内容の雑誌は、厳しい検閲と弾圧を受けました。昭和13(1938)年4月に公布された「国家総動員法」の前後から、太平洋戦争の戦後にかけて、雑誌受難の時代となります。

戦時中創刊された雑誌は、戦中の国民意識を陽動させるかのような『戦争文化』、『東亜問題』等をタイトルに付け、敵性用語を禁止したため、既刊の雑誌タイトルは『キング』が『富士』に、『サンデー毎日』は『週刊毎日』へと改題させられました。昭和19(1944)年には、『改造』の論文に端を発した、日本の言論弾圧事件の中でも大きな事件の一つ「横濱事件」が起こり、『改造』、『中央公論』は廃刊に追い込まれました。そのわずか数ヶ月後に東京への空襲が始まり、翌年の3月には東京、大阪の大空襲、8月には広島、長崎への原爆投下と、多くの人命が失われ、また多くの出版物も焼失しました。

Pick up !

『歴史学研究』 昭和8(1933)年11月 歴史学研究会

日本の代表的な歴史学研究的な学術団体の一つ、歴史学研究会が創刊した『歴史学研究』は、出版者を変えながら現在まで刊行が続いています。当時としては斬新なレイアウトの巻頭グラビアが目を惹きます。





『躬行』 昭和9(1934)年3月 躬行会

「躬行」とは、「口で言うとおりを、みずから実践して行うこと(広辞苑)」の意で、創刊号の巻頭で「躬行の力」として創刊者の大倉邦彦の精神が記されています。実業家であり、教育者であり、思想家でもあった大倉邦彦は、月刊誌『躬行』の中で、全国読者の精神修養についての悩みなどに応える形で構成されています。

5 昭和（戦後）

終戦直後は、それまで押さえつけられていた欲求が解放されたかのように出版社は急増し、雑誌の創刊と復刊が相次ぎ、活字に飢えていた人々も飛びつきました。昭和20(1945)年10月のまさに終戦直後に創刊された『新生』は、青山虎之助率いる新生社が、紙と印刷を他社に工面してもらいながらも、有名な執筆陣を迎えた総合雑誌としてスタートしました。

言論と出版の自由を得た日本でしたが、GHQによる事前検閲が行われていたのもまた事実であり、それは昭和23(1948)年まで続けられました。復刊した『改造』、『中央公論』もまた、進駐軍に意見する記事を掲載したとして、検閲後、記事が差し替えられていました。

マッカーサーが罷免されてからの昭和30年代は、週刊誌の創刊ラッシュが相次ぎました。それまでの週刊誌は新聞社による刊行でしたが、ここで初めて、出版社による週刊誌が創刊されたのです。まず昭和31(1956)年2月、新潮社から『週刊新潮』が、その後も昭和34(1959)年4月に講談社の『週刊現代』、文藝春秋社の『週刊文春』へと続きます。

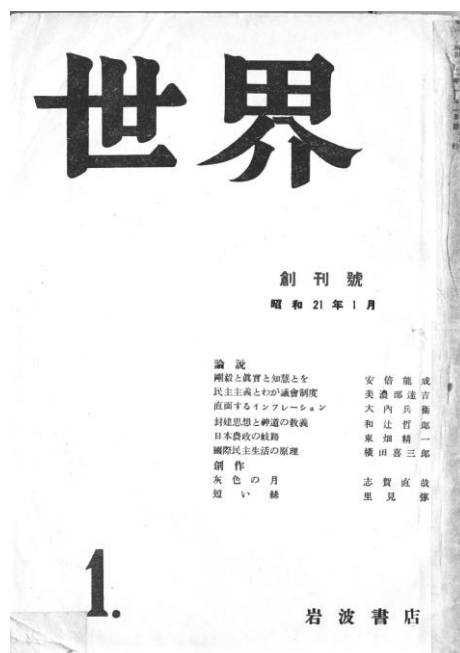
そして現代へと繋がる昭和40年代、漫画雑誌や娯楽雑誌が数多く創刊され、週刊誌では小学館から昭和44(1969)年『週刊ポスト』が創刊されました。

時代とともに歩む雑誌は、その後も数多く生まれ、または消え、変化しながら、私たちに様々な情報とメッセージを発信し続けています。

Pick up !

『世界』 昭和21(1946)年1月 岩波書店

戦後すぐに創刊された『世界』は、硬派の総合雑誌として創刊され、一貫して平和・反戦、日中問題、沖縄問題、北朝鮮・韓国問題を取り上げました。終戦から様々な問題を抱えながら現実世界に立ち上がろうとする気運は、「発刊の辞」において力強く語られています。安倍能成、志賀直哉など学者・文化人による総合雑誌発刊の計画を経て創刊されたもので、創刊号には作家の武者小路実篤や、ノーベル賞受賞者の湯川秀樹が執筆しています。



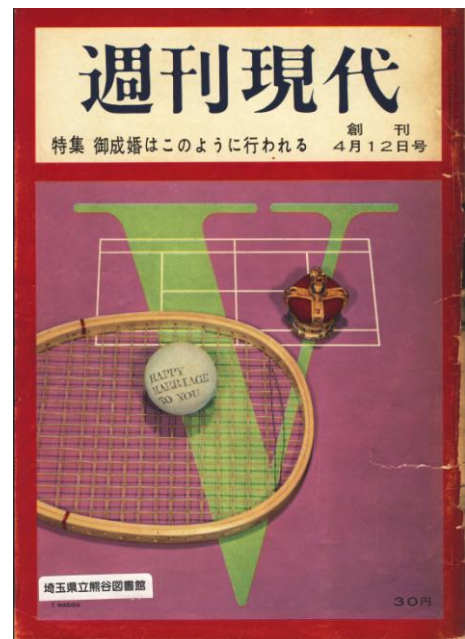
『真相』 昭和21(1946)年3月 人民社
(三一書房 復刻版 1980)

「真相はかうだ」というGHQ民間情報教育局の指導によるラジオ放送が、昭和20(1945)年に開始しました。「太平洋戦争はかくして始められた！」などと、戦時中極秘となるような内容で、国民にセンセーションを巻き起こしました。この放送は出版業界にも影響を与え、雑誌『真相』も、大戦批判を主としたいわゆるバクロ雑誌として創刊されました。戦中、報道管制の下、真相を隠されていた国民の話題を呼び、創刊号は2万部が売り切れたようです。

『週刊現代』 昭和34(1959)年4月12日 講談社

この時期発行の雑誌がこぞって取り上げた皇太子と美智子妃のご成婚に、「御成婚はこのように行われる」と題した特集名、表紙はテニスラケットと王冠のイラストで創刊されました。編集長の大久保房男は文芸誌「群像」と兼ねた編集長として就任し、連載小説には石坂洋次郎、川口松太郎、柴田錬三郎、吉行淳之介を起用しています。

講談社ではこの雑誌の2週間前に「週刊少年マガジン」が刊行されています。



『週刊文春』 昭和34(1959)年4月20日 文藝春秋社

皇太子ご成婚2日前、わずか2か月の準備期間で『週刊文春』は創刊されました。表紙は着物姿の美智子妃のカラー写真を使用し、グラビアは皇室関連、ページをめくるとにご成婚と創刊を祝す広告が多く掲載されています。キャッチ・フレーズは「文藝春秋のジェット版」。実売部数60万部のスタートを切り、現在も代表的な週刊誌の一つです。

より詳しく知りたい方へ

～県立図書館にある今回の展示資料～

※雑誌:発行年月順『誌名』巻号 出版年 出版者(創刊号は創刊当時の出版者)

リスト掲載の雑誌は貸出ができませんが、複写が可能です。

※図書:『書名』著者名 発行者 出版年 所蔵館【県立図書館の請求記号】

※以下に掲載した資料は、県立熊谷図書館2階ロビーで8月25日(日)まで展示中です。

◆ 創刊雑誌に関する図書

- 『創刊号のパノラマ』(うらわ美術館／編 岩波書店 2004.9)【R027.5/ソウ/】
『時代を創った編集者 101』(寺田博／編 新書館 2003.8)【021.43/シタ/】
『日本雑誌協会史 第1部』(日本雑誌協会／編 日本雑誌協会 1968)【050/N71/】
『日本雑誌協会史 第2部』(日本雑誌協会／編 日本雑誌協会 1969)【050/N71/】
『雑誌大研究』(斎藤精一／著 日本工業新聞社 1979.2)【051/サ/】
『雑誌100年の歩み』(塩沢実信／著 グリーンアロー出版社 1994.9)【051/ザ/】
『雑誌の死に方』(浜崎広／著 出版ニュース社 1998.3)【051/サツ/】
『雑誌は見ていた。』(植田康夫／著 水曜社 2009.11)【051/サツ/】
『創刊号に賭けた十人の編集者』(塩沢実信／著 流動出版 1981.4)【051/ソ/】
『創刊誌大研究』(穂高亜樹／著 大陸書房 1982.11)【051/ソ/】
『創刊の社会史』(難波功士／著 筑摩書房 2009.1)【051/ソウ/】
『古雑誌探究』(小田光雄／著 論創社 2009.4)【051/フル/】
『ミリオンセラー誕生へ!』(印刷博物館／編著 東京書籍 2008.9)【051/ミリ/】

◆ 明治

(雑誌)

- 『團圓珍聞』1号(明治10年3月)珍聞館(複製版 本邦書籍)
『出版月評』1号(明治20年8月)月評社(複製版 龍溪書舎)
『龍門雑誌』1号(明治21年4月)龍門社
『図書館雑誌』1号(明治40年10月)日本文庫協会(複製版 学術文献普及会)
『中央公論』25年5号(明治43年5月)反省社

(図書)

- 『「中央公論」100年を読む』(三浦朱門／著 中央公論社 1986.8)【051.3/ミ/】
『明治大雑誌』(流動出版 1978.12)【051/メ/】
『明六雑誌 上』(山室信一／校注 岩波書店 1999.5)【B051.1/メ/】

◆ 大正

(雑誌)

- 『思潮』創刊号(大正6年5月)(岩波書店)(複製版)
『思想』1号(大正10年10月)(岩波書店)(復刻版)
『種蒔く人』創刊号(大正10年10月)(種蒔き社)(復刻版 ほるぷ出版)

(図書)

『雑誌「改造」の四十年』(小林英三郎／〔ほか〕編著 光和堂 1977.5)【051/ザ/】

『改造社と山本実彦』(松原一枝／著 南方新社 2000.4)【289.1/ヤマ 133/】

◆ 昭和(戦前～戦後)

(雑誌)

『文藝春秋』 1927年9月特別号(昭和2年9月)文藝春秋社

『図書館研究』 1巻(昭和3年1月)青年図書館員連盟

『國史學』 1号(昭和4年11月)国史学会

『郷土:研究と教育』 創刊号(昭和5年11月)刀江書院(複製版 名著編纂会)

『改造』 14巻7号(昭和7年7月)改造社

『輝ク』 1号(昭和8年4月)輝ク会(復刻版 不二出版)

『歴史学研究』 創刊号(昭和8年11月)歴史学研究会

『躬行』 1号(昭和9年3月)躬行会

『江戸と東京』 創刊号(昭和10年10月)江戸と東京社(復刻版 明石書店)

『自由』 創刊新年号(昭和12年1月)自由社(復刻版 新時代社)

『総動員』 創刊号(昭和14年6月)国民精神総動員朝鮮連盟

『キング』 17巻10号(昭和16年10月)大日本雄弁会講談社

『嘉信』 1号(昭和20年1月)嘉信社(復刻版 新地書房)

『民主文化』 創刊号(昭和20年1月)中外出版

『世界』 創刊号(昭和21年1月)岩波書店

『真相』 創刊号(昭和21年3月)人民社(復刻版 三一書房)

『日本歴史』 創刊号(昭和21年6月)日本歴史社

『歴史評論』 創刊号(昭和21年10月)丹波書林

『書評』 創刊号(昭和21年12月)日本出版協会

『図書館界』 1巻1号(昭和22年5月)日本図書館研究会

『図書』 復刊1号(昭和24年11月)岩波書店

『びぶろす』 VOL. 1(昭和25年4月)国立国会図書館支部図書館部

『読書春秋』 創刊号(昭和25年4月)春秋会

『学校図書館』 創刊号(昭和25年9月号)全国学校図書館協議会

『地方史研究』 創刊号(昭和26年3月)地方史研究協議会

『読書人』 1号(昭和26年4月)東京堂

『レファレンス』 No. 1(昭和26年5月)国立国会図書館調査立法考査局

『文庫』 1号(昭和26年10月)岩波書店

『大日光』 第1号(昭和27年8月)日光東照宮

『米書だより』 1号(昭和28年4月)米国大使館文化交換局

『新教会』 創刊号(昭和28年8月)新教会

『私たちの考古学』 1号(昭和29年6月)考古学研究会(復刻版 考古学研究復刻版刊行会)

『図書館学』 創刊号(昭和29年6月)西日本図書館学会

『地理』 創刊号(昭和31年10月)古今書院

『読書科学』 1巻1号(昭和31年10月)牧書店

『日本』 創刊号(昭和33年1月)大日本雄弁会講談社

『新聞資料』 1号(昭和34年1月)日本新聞資料協会

『東方』 1号(昭和34年1月1日)東方通信社

『現代の図書館』 1巻1号(昭和38年3月)日本図書館協会
 『現代のエスプリ』 創刊号(昭和38年5月)至文堂
 『現代の理論』 創刊号(昭和39年2月)河出書房新社
 『総合ジャーナリズム研究』 1巻1号(昭和39年9月) 東京社
 『宝石』 創刊号(昭和40年10月)光文社
 『三井文庫論叢』 創刊号(1967年)三井文庫
 『世界思想』 創刊号(昭和42年6月) 世界思想社
 『小さな図書館』 創刊号(昭和42年12月)あかね書房
 『古文書研究』 創刊号(昭和43年6月)吉川弘文館
 『太陽』 創刊号(昭和43年6月)平凡社
 『月刊ペン』 創刊号(1968年11月)月刊ペン社
 『諸君』 創刊号(昭和44年7月号) 文藝春秋社
 『参考書誌研究』 創刊号(昭和45年11月)国立国会図書館参考書誌部
 『伝統と現代』 1号(昭和45年12月) 伝統と現代社
 『遊』 創刊号(1971年)工作舎
 『月刊面白半分』 創刊号(昭和47年1月)面白半分
 『いんなあととりっふ』 創刊号(昭和47年6月) 佛乃世界社
 『窓』 1号(1972年7月)ナウカ
 『親子読書運動』 創刊号(昭和47年8月)日本親子読書センター
 『季刊現代史』 創刊号(昭和47年11月)現代史の会
 『終末から』 創刊号(昭和48年6月) 筑摩書房
 『月刊歴史手帖』 1巻1号(1973年11月)名著出版
 『歴史と旅』 1巻1号(1974年1月)秋田書店
 (図書)
 『岩波書店と文藝春秋』(毎日新聞社／編 毎日新聞社 1996.8)【023/イ/】
 『戦後出版史』(塩澤実信／著 論創社 2010.12)【023.1/セン/】
 『雑誌で見る戦後史』(福島鏑郎／著 大月書店 1987.4)【051/サ/】
 『雑誌で読む戦後史』(新潮選書) 木本至／著 新潮社 1985.8)【051/サ/】
 『雑誌と読者の近代』(永嶺重敏／著 日本エディタースクール出版部 1997.6)【051/サツ/】
 『昭和大雑誌 戦前篇』(流動出版 1978.7)【051/シ/】
 『昭和大雑誌 戦中篇』(流動出版 1978.9)【051/シ/】
 『昭和大雑誌 戦後篇』(流動出版 1978.10)【051/シ/】
 『戦後雑誌の周辺』(福島鏑郎／著 筑摩書房 1987.12)【051/セ/】
 『戦後雑誌発掘』(福島鏑郎／著 洋泉社 1985.8)【051/セ/】
 『戦時下の雑誌』(高崎隆治／著 風媒社 1976)【051/セ/】
 『展望戦後雑誌』(紅野敏郎／〔ほか〕著 河出書房新社 1977.6)【051/テ/】
 『戦後雑誌発掘』(福島鏑郎／編著 日本エディタースクール出版部 1972)【051/フ/】
 『「世界」の40年』(大江健三郎／対談 岩波書店 1984.12)【051.3/セ/】
 『戦時グラフ雑誌の宣伝戦』(井上祐子／著 青弓社 2009.2)【051.4/セン/】
 『文藝春秋編集長』(塩澤実信／著 展望社 2005.9)【289.1/イケ 054/】
 『「文藝春秋」にみる昭和史 1～3』(文藝春秋／編 文藝春秋 1988)【210.7/ブ/】
 『改造社の時代 戦前編』(水島治男／著 図書出版社 1976)【210.7/ミ/】
 『改造社の時代 戦中編』(水島治男／著 図書出版社 1976)【210.7/ミ/】
 『新東京名所巡り競争双六』(『キング』創刊号付録)
 (キング編集局／編 浅野薫／画 講談社 1925)【藜 798/キ】
 『「キング」の時代』(佐藤卓己／著 岩波書店 2002.9)【051.6/キン/】

◆ 週刊誌

(雑誌)

『週刊朝日』1924年11月23日 朝日新聞社

『サンデー毎日』 1941年7月13日号(昭和16年7月)大阪毎日新聞社

『週刊新潮』昭和31年7月23日号 新潮社

『週刊文春』創刊特大号(昭和34年4月20日) 文藝春秋社

『週刊現代』創刊号(昭和34年4月12日) 講談社

『週刊ポスト』創刊号(昭和44年8月22日) 小学館

(図書)

『週刊誌風雲録』(高橋呉郎／著 文藝春秋 2006.1)【051.6/シユ/】

『週刊誌五十年』(野村尚吾／著 毎日新聞社 1973)【051/シ/】

『週刊誌のすべて』(朝日新聞社／編 国際商業出版 1976)【051/シ/】

※今回展示はしていませんが、『Lib Letter 32号』を作成する上で、以下の資料等も参考としました。

『出版人物事典 明治－平成物故出版人』

(鈴木徹造／著 出版ニュース社 1996)【R023.1/シ/】

『図書館ハンドブック』(日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会／編

日本図書館協会 2010)【R010.36/ト/シ/】

齊藤誠一著「大倉精神文化研究所付属図書館」(『ず・ぼん 14』ポット出版 2008.9)

《渋沢栄一記念財団》

<http://www.shibusawa.or.jp/>

(2013/5/24 最終確認)



彩の国さいたま

上記以外にも、県立図書館では雑誌の創刊号とバックナンバー、雑誌に関する資料を所蔵しております。お探しの資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。